

鐵 と 鋼 第 壹 年 自 第 壹 號 至 第 拾 號 目 次

祝 辭……………渡 邊 渡 號數 一 頁數 一

祝 辭……………團 琢 磨 號數 一 頁數 二

日本鐵鋼協會の成立並に其會誌第一號の發刊を祝す……………今泉嘉一郎 號數 一 頁數 三

本邦製鐵事業の過去及將來……………野 呂 景 義 號數 一 頁數 一
 〇九八七六五四三二一
 一九八七五四三二一
 二七四一九九六四
 五八〇七五四三五五

列強の製鐵事業……………野 田 鶴 雄 號數 三二一 頁數 二一
 二七五
 四三

八幡製鐵所の事業に就て……………服 部 漸 號數 一 頁數 二
 四

船舶螺旋軸折損に就て……………堤 正 義 號數 二一 頁數 一
 六三
 四五

鑛滓煉瓦と日本の建築物……………黑 田 泰 造 號數 一 頁數 四
 五

鑄物工業と冶金學……………齋 藤 大 吉 號數 一 頁數 五
 〇

我邦に於ける坩堝製鋼の發達……………向 井 哲 吉 號數 二 頁數 一
 三
 七

輪鐵破斷の徵候に就て……………石 黒 豊 號數 二 頁數 一
 四
 二

チエーソンの製造法其歴史及發達に就て……………布 目 四 郎 吉 號數 四三 頁數 二
 四
 八

參兒の豫熱器に就て……………	黒田泰造	三	二五二
八幡製鐵所に於ける金屬材料の機械的試験設備……………	落合畝三郎	四三	二五七
煙管腐蝕の研究……………	勝木壽一	四	三五七
我國製鐵事業發展に付ての急務……………	香村小録	五	四六七
鎔鑛爐用骸炭に就て……………	黒田泰造	五	四七〇
大冶鐵山の沿革及現況……………	西澤公雄	六五	四七六
歐洲戦争と造船……………	今岡純一郎	七六	五七三
鐵と鋼の組織鑑定表……………	渡邊行太郎	七六	七〇六
加熱に歸因する鑄鐵容積増加の實驗……………	俵國一	七	六九三
鋼中のタンゲストンの簡易定量分析法……………	關口八重吉	七	六九五
本邦の硫化鐵鑛焚滓の利用法に就て……………	渡邊泰憲	八	八一九
石油タンク破裂に就て……………	川合得二	八	八二二
鐵道院官房研究所に於ける金屬材料の機械的試験設備……………	今泉嘉一郎	九	九六三
滿洲に於ける製鐵事業……………	石黒豊	九	九七〇
鑄鋼の焼鈍作業に就て……………	島岡亮太郎	一〇	一〇八九
X光線の金屬に於ける應用……………	藤井寛	一〇	一一〇三
燒鈍のニツケル線に及ぼす二三の影響……………	戸波親平	一〇	一一一九
	後藤正治	一〇	一二三

拔萃

大藏省主税局調査輸入防遏工業の内鐵及鋼に關係あるもの	一	五九
滿庵鋼の滿庵含有量に就て(藤生)	一	六五
鋼板及鋼彈の注文	一	六五
骸炭爐に於ける高爐瓦斯使用	一	六七
東京停車場建築鐵材	一	七三
完全なる鋼塊及軌道に於て(S, S, 生)	一	七六
世界に於ける電氣製鋼事業の現狀	一	八八
骸炭爐及熔鑄爐瓦斯利用の動力に就て(J, I, 生)	二	一六八
硬度に關する内部歪み論	二	二九三
熱錐旋削による軌條素材の改善(S, F, 生)	二	一七八
熔鑄爐附屬熱風爐の加熱方法に關しての一新機軸(城正俊)	二	一九一
ミネソト地方に於ける平爐法と鹽基性ペセマー法との經濟の比較(S, U, 生)	二	一九九
鑄鐵爐の衝風に使用するターボブローに就て(J, A, 生)	三	二八一
常溫壓延作業を施せる鋼の硬度試験(かわい生)	三	四〇〇
鋼の健全に際し之か加熱に鹽類溶液を用ふる時其鋼の受くべき脱炭作用(Y, K, 生)	三	三二〇
亞級炭素鋼に於ける組織及びホステリシス損失(T, M, 生)	三	三二四
部分的焼入法の得失(かわい生)	四	三二九
工具鋼の焼入れに關する實地上の要項(かわい生)	四	四一二
燒蝕に關するTschernoff氏の理論(Y, K, 生)	四	四一四
運轉中折損せる車軸に就て(S, F, 生)	四	四一六
鋼の鑄銹に對するモリブテン(MO)の影響(Y, K, 生)	四	四二三
鐵工業に對する戰爭の影響(K, I, 生)	四	四三二
英帝國の鐵鋼工業(た生)	五	五〇四
最近の瓦斯動力送風所(T, U, 生)	五	五一三
鑄鐵と鋼の腐蝕度(かわい生)	五	五一七
キユーボラに液態燃料の利用(かわい生)	五	五二二
轉爐製鋼作業により生ずる熱量(J, I, 生)	五	五二七
酸性電氣爐に就て(Y, K, 生)	五	五二九

目次

電氣製鋼法に於ける熔滓の任務(K, 生)	五	五四一
工業用金屬の選定性質及取扱法(Y, K, 生)	六	五四九
土壤中に於ける金屬の腐蝕(米澤)	六	六〇九
耐火材料に就て(理學士淺井郁太郎)	六	六二五
鐵合金類の電氣製煉法につき(T, M)	六	六三二
諾威に於ける電氣熔鑄爐銑鐵(J, I, 生)	六	六四二
粉鐵及び烟塵團結スコーリヤ法(J, I, 生)	六	六四八
戰時歐米視察談(工學博士大島道太郎)	七	六五一
鐵コバルト及炭素の化學的竝に機械的關係(T, O, 生)	七	七五〇
歐洲戰場に於ける彈丸に就て(K, I, 生)	七	七六〇
合衆國政府の民間兵器製造所渴望(K, I, 生)	八	八六七
熔鑄爐の衝風に就て(J, A, 生)	八	八七一
メーリランド、アナポリスの工業試驗所に於て行ひたる材料試驗	八	八八〇
米國に於ける滿庵鐵及滿庵鐵の供給(Y, I, 生)	九	一一〇
熔鑄爐改善の傾向(Y, I, 生)	九	一一九
溶鑄爐石炭使用の一新法(J, I, 生)	九	一二〇
試驗材に對する米國協會の決議	九	一〇〇
合金鋼に就て(Y, K, 生)	九	一〇四
支那旅行談の一節(横堀治三郎)	九	一〇三
熔鑄爐の化學的原理(さ、こ)	一〇	一三九
市場鋼の製造に於て平爐と電氣爐との比較(Y, W, 生)	一〇	一四三
鐵中の炭素分布に就て(臨江生)	一〇	一五九
連續的鑄造の意義(さ、こ)	一〇	一六五
鑄型砂と其乾燥(さ、こ)	一〇	一七七

雜錄

獨逸製鐵業に對する戰爭の影響	一	一〇二
本溪湖煤鐵公司熔鑄爐吹入	一	一〇三
過去五ヶ年間に於ける世界の造船噸數	一	一〇四
帝國海事協會の船舶用材料検査及強力試驗	一	一〇四

米國に於ける自動車製造(藤生)	一〇五	鋼鑄物を焼鈍せし結果(フワウンドリー)	四三八
新著紹介鋼鐵製造術土卷(倭)	一〇五	銑鐵中の硫黄分を減少すへき銑解法(かわい生)	四三九
熔鑄爐煙塵の電氣的沈定法	二一六	漢冶萍煤鐵公司近況一東	四四〇
發生爐瓦斯の澆過	二一六	印度產滿僱鐵の輸出追年増加	四四一
戰時に於ける獨逸國鋼の消費高	二一七	内地製鐵品の輸出	四四一
世界に於ける原油の産額	二一八	伊太利の製鋼業者古鐵の供給に窮す	四四一
三井价川鐵山輕便鐵道布設	二一九	製鋼會社設立	四四一
桑博開場	二一九	本溪湖の銑鐵	四四一
本年一月に於ける英國鐵鋼輸出入の狀況	二一九	九州機械學會大會と通俗講演會	四四二
景氣恢復の氣運(農商務省商工局調査)	二二〇	釜石製鐵所ロール工場の擴張	四四五
三十八年間繼續作業せし熔鑄爐(スタール、ウインド、アイゼン)	二二〇	英國鐵鋼協會大會(K, T)	四四五
歐洲戰爭と米國の製鋼業(アイアン、アンド、コール、トレーツ、リビエー)	二二二	米國鐵鋼協會春季會(K, T)	四四六
鐵及び鋼に關する特許●炭素の高含有率を有する強靱性鋼の製造法●鋼の改良製造法●硅素鋼板仕上げ方法●完全鑄型裝置●鑄型製造用器具●チルド鑄造法●鑄型	二二三	鋼に對する銅の影響(I, K, 生)	四四七
鋼鑄物の検査にX光線の利用(かわい生)	二三四	タンクステンの産地及産出高(Y, K, 生)	四四八
テイロアー氏の計音(アイアン、トレーツ、リビエー)	二三四	鑄鐵に對する酸素燐及クロム等の影響(K 生)	四四八
鹽基性平爐のスラグに對する螢石の作用(Y, K, 生)	二三五	鑄鐵の物理的性質(K 生)	四四九
漢冶萍の現状	二三五	銑鐵爐の送風乾燥により得たる出銑量の非常なるレコード(J, I, 生)	四四九
鋼鐵價格の將來(エコノミース)	二三六	英國銑鐵輸出の減少(エンヂニヤリング)	四五〇
米國製鋼界の復業	二三七	加奈陀の鐵鑄(た)	四五〇
千八百九十三年以降各年次に於ける造船用鋼板の價格(シツ)	二三七	日本鋼管會社材料試驗機	四五〇
新著紹介 Conklin, C. D.—Structural Steel Drafting and Elementary Design. Hatfield, W. H.—Cast Iron in the Light of Recent Research.	二三七	製鐵所擴張效果	四五〇
各金屬類に適應する腐蝕劑	二三五	新著紹介 Heat Treatment of Steel	四五〇
鋼鑄型(た生)	四三五	鐵及び鋼に關する特許(今泉氏製鋼法、羽口及冷却函用鑄型、濕式安全硫黄製煉法、活字鑄造機)	五五一
佛國及獨逸國冶金工業上に及ぼす戰爭の影響(Le Génie Civil)	四三六	獨逸國銑鐵產出狀況(た)	五五七
モール、エルー氏略傳(Y, K, 生)	四三七	獨逸及埃匈國に於ける電氣鋼(K 生)	五五七
可鍛鑄物の原料中の硫黄を除去する法(チ、アイアン、エーヤ)	四三八	銑鐵爐内に於ける滿僱の還元(K 生)	五五八
		稀薄なる酸アルカリ及鹽類溶液の金屬に對する作用(K 生)	五五九
		心型凝結劑に就いて(M, K 生)	五六〇
		硅藻土保温煉瓦(J, I, 生)	五六一
		交戰國と鐵(獨逸は優勢)	五六三

鍍金新法	六六四
シニユーブ噴霧鍍金法	六六四
大亂前後に於ける製鐵業(グラスゴー、ヘラルド)	六六四
銀山頭嶺鐵鑛の復活	六六八
漢冶萍煤鐵公司近狀一束	六六八
本年度採鑛冶金學科機械學科及造船學科卒業生	六七〇
新著紹介、鐵及鋼の組織並に其應用(倭)	六七〇
鐵及鋼に關する特許(石油蒸溜法、改良合金)	六七一
製鐵所と鐵問題(國民新聞)	七九〇
八幡製鐵所用炭激増	七九三
コールド製造高	七九三
タールを燃料とする平爐(K生)	七九四
再加熱、熱取扱及軟過に要する電氣爐の價値(K生)	七九四
鐵合金の熱氣電力に就て(K生)	七九五
獨國の銑鐵產出狀況(た生)	七九五
西班牙國の鐵鑛、鐵及び鋼の產出狀況(た生)	七九五
新著紹介、Baekert, A. O.—The ABC of Iron and Steel, with a Directory of the Iron and Steel Works and Their Products of the United States and Canada	七九六
鐵及鋼に關する特許(チルド鑄造法、鑄造裝置、金屬製軸承、防錆液)	七九七
歐米首要國製鐵業十年目の進歩狀態(た生)	九一九
獨逸國の戰時鐵鋼工業(た生)	九一九
英本國本年上半年期鐵鋼輸出入狀況(た生)	九二一
露國烏拉爾地方の製鐵事業の狀況(た生)	九二二
米國の本年上半年期間銑鐵製出高(た生)	九二二
南濠洲の鐵鑛(た生)	九二二
支那鐵務署裁撤と鑛業家(上海)	九二三
支那各省油鑛の調査(上海)	九二三
鋼の腐蝕に對する銅の影響(かわい生)	九二三
熱作業を施せるニッケル、炭素及び滿俺鋼の比較(かわい生)	九二四
製鐵所の處分(讀賣新聞)	九二五

90 製鐵所擴張問題(大阪毎日新聞)	九二六
91 製鐵所の新設備(福岡日々新聞)	九二六
92 輪西製鐵所擴張(小樽新聞)	九二六
93 電氣鋼の製出(東京朝日新聞)	九二七
94 奉天省鞍子河鐵鑛產地調査報告(木戸忠太郎)	九二七
95 奉天省七道溝鐵鑛產地調査報告(木戸忠太郎)	九二七
96 支那鐵產物(民國二年度)N、K、生	九二八
97 民國三年支那鐵產物の輸出入	九二九
98 新著紹介	九三三
鐵及鋼に關する特許(活字鑄造機、鋸齒研磨機、鋸製造裝置、長谷川式粉炭用グレート燃焼裝置、砲彈の改良、砲兵用彈丸、瀘過方法、金屬燒鈍用爐に關する改良、鑄型用パイプ)	九三三
瑞典電氣冶金工場に於ける新電氣熔鑛爐(Y、K、生)	九五五
99 アームストロング社長逝く(萬朝報)	九五九
100 本邦製鐵の前途(大阪朝日新聞)	一〇五九
101 製鐵熱の勃興(大阪時事新報)	一〇六〇
102 神戸製鐵所の擴張(東京日々新聞)	一〇六〇
103 仕樣書に依る石炭の購入につき(み)	一〇六〇
104 鐵價刻々上進	一〇六一
105 米國の鐵類賣止(時事新報)	一〇六一
106 英國も鐵類賣止(萬朝報)	一〇六二
107 米國の鐵鑛產出狀況(た生)	一〇六三
108 白耳義の製鐵業(た生)	一〇六三
鐵及鋼に關する特許(阪本式輕便鐵索運搬裝置、アルミニウム鑛、金屬鑄造器械)	一〇六四
109 戰役間鐵以外の金屬の需用(K生)	一〇六六
110 米國鐵鋼協會秋季大會(K、T生)	一一八一
111 英國鐵鋼協會秋季大會(K、I生)	一一八一
112 九・八四%の純度を有するアームコ鐵 Armco Iron (K生)	一一八二
113 炭滲法に用ふべき炭滲劑(さ、こ)	一一八三
114 齒車等の斷熱處理法(かわい生)	一一八四
115 研磨せる鐵及鋼製品の鑄止法(かわい生)	一一八五

117	反射爐要部の割合(かわい生)	一〇	一一八六
20	鐵及鋼に關する輸入戻稅改正	一〇	一一八八
111	八幡製鐵所擴張問題	一〇	一一八八
112	滿鐵會社製鐵兼營問題	一〇	一一八九
113	製鐵事業新企畫	一〇	一一九〇
114	英米鐵鋼賣止後報	一〇	一一九一
115	金屬加工業殷盛(大阪毎日)	一〇	一一九二
116	鐵及鋼に關する特許(鐵管鑄造用眞型成製裝置、小島式浮遊選 鑄裝置、川合式羽口冷却函用鑄型、ウォルフラム鐵鑄より酸 化ウォルフラムを製造する方法)	一〇	一一九二

商況

海外商況

米國に於ける鐵及諸金屬の市況(一月末、二月初)	一	一〇六
米國金物市況(三月三日)	二	二二七
同 (三月)	三	三三八
同 (四月)	四	四四三
同 (五月)	五	五五六
同 (六月)	六	六七三
同 (七月)	七	七九八
同 (八月)	八	九四五
同 (九月)	九	一〇六九
同 (十月)	一〇	一一九五
獨逸國金物市況(二月初旬)	二	二二八
同	三	三四〇
獨逸鐵鋼の騰貴(四月―六月)	四	四四七
獨逸金物市況(四月)	六	六七六
同	七	八〇二
同	一〇	一一九七
英國に於ける金屬市況(一月末、二月初)	一	一〇七
英國金物市況(二月末、三月初)	二	二二九
英國金屬市況(三月末、四月初)	三	三四一

内國商況

英國金物市況(四月末、五月初)	四	四四五
同 (五月末、六月初)	五	五五九
同 (六月中)	六	六七七
同 (七月初、中)	七	八〇一
同 (八月中)	八	九四七
同 (九月初)	九	一〇七一
同 (十月中)	一〇	一一九八
三月の商況	二	二三〇
四月の商況	三	三四二
五月の商況	四	四四七
六月の商況	五	五五九
七月の商況	六	六七九
八月の商況	七	八〇三
九月の商況	八	九四八
十月の商況	九	一〇七三
十一月の商況	一〇	一二〇〇
内國相場表		
三月調	一	一〇八
同	二	二三二
四月調	三	三四五
五月調	四	四四九
六月調	五	五六一
七月調	六	六八一
八月調	七	八〇六
九月調	八	九五〇
十一月調	九	一〇七五
十二月調	一〇	一二〇三

統計

既往三ヶ年に於ける輸出入品中鐵及鋼に關するもの	一	一一二
輸出入貨物品別表(一月)	一	一一五

同	(二月)	二	二二六
同	(三月)	三	三四九
同	(四月)	四	四五九
同	(五月)	五	五六六
同	(六月)	六	六八五
同	(七月)	七	八一二
同	(八月)	八	九五七
同	(九月)	九	一〇八二
同	(十月)	一〇	一二〇九
本邦鐵山及炭坑產額表(一月)		二	二四〇
同	(二月)	三	三五二
同	(三月)	四	四六二
同	(四月)	五	五六九
同	(五月)	六	六八八
同	(六月)	七	八一五
同	(七月)	八	九六〇
同	(八月、九月)	九	一〇八五
同	(十月)	一〇	一二二二
亞米利加合衆國に於ける最近製銑熔鑪爐數及操業數		一	一一九
一九一三年末に於ける英國熔鑪爐現在數調		一	一一一
北米合衆國銑鐵產出高(一九〇〇—一九一四)		二	二二九
獨逸の鋼產額(一九一四年十二月及同年下半年)田生		三	三五四
一九一四年英國銑鐵產額(た生)		四	四五三
一九一四年米國銑鐵產額(た生)		四	四五五
昨年中の米國軌條製造高(た生)		四	四五七
露國に於ける製鐵及び製鋼工場の設備(た生)		四	四五八
一九一四年英國鋼產額		五	五六五
露國鐵工業(一九〇九—一九一四)た生		五	五六五
露國鐵鋼輸出入狀況(一九一四年)た生		六	六八四
印度の滿鐵輸出入狀況(一九一三—一九一四)た生		六	六八四
佛國の鐵鑛、鐵並に鋼の輸出入狀況(一九一三—一九一四)た生		七	八一〇
米國の建築用成形鐵、鑄鋼、並に釘類製出狀況(一九二一—一九			

目次

日本鐵鋼協會記事

一四)た生	七	八一
加奈陀の鐵鋼產出統計(一九一四年)た生	八	九五四
一九一四年中米國の製鋼高統計(た生)	八	九五五
獨逸の最近製鐵統計(た生)	九	一〇七八
米國本年上半期の銑鐵產額統計(た生)	九	一〇七九
米國の鐵鋼輸出入統計(六月)た生	九	一〇八〇
伊太利の鐵及鋼產出統計(一九二一—一九一三)た生	九	一〇八一
西班牙の鐵及鋼輸出入統計(上半期)た生	九	一〇八一
瑞典の鐵及鋼輸出入額(一九一四—一九一五)た生	一〇	一一〇七
諾威の鐵及鋼輸出入額(一九一三—一九一五)た生	一〇	一一〇七
伊太利の鐵及鋼輸入額(一九一四—一九一五)た生	一〇	一一〇七
印度の鐵鋼類產出額(一九二一—一九一三)た生	一〇	一一〇八
露國の鐵及鋼產出額、一九一三—一九一四)た生	一〇	一一〇八
總會前に於ける創立準備	一	一二三
講演會(四月十二日)	二	二四二
同 (六月八日)	四	四六五
評議員會(四月二十二日)	三	三五五
同 (五月二十九日)	四	四六五
同 (六月二十三日)	五	五七二
同 (十月十三日)	八	九六二
同 (十月の分追加)	九	一〇八六
同 (十二月二十二日)	一〇	一二一四
本邦製鐵事業振興に關する調査委員打合會	五	五七二
御大禮賀表奉呈	九	一〇八六
編輯會(三月六日)	一	一二六
同 (三月十六日)	一	一二六
同 (四月十四日)	二	二四二
同 (五月十二日)	三	三五五
同 (六月九日)	四	四六五
同 (七月七日)	五	五七二

同	(九月八日)	七	八一八
同	(十月十三日)	八	九六二
同	(十一月五日)	九	一〇八七
同	(十二月八日)	一〇	一二一四
會務(四月)	二	二四二
同	(五月)	三	三五五
同	(六月)	四	四六五
同	(七月)	五	五七二
同	(十二月)	一〇	一二一四
第二部研究委員會(十月二十二日)	九	一〇八七
日本鐵鋼協會々則	一	一二七
大正四年三月二十日現在會員氏名	一	一三一
入退會(三月二十一日—四月十五日)	二	二四二
同	(四月十六日—五月十五日)	三	三五五
同	(五月十六日—六月十五日)	四	四六六
同	(六月十六日—七月十五日)	五	五七二
同	(七月十六日—八月十五日)	六	六九一
同	(八月十六日—九月十五日)	七	八一八
同	(九月十六日—十月十五日)	八	九六二
同	(十月十六日—十一月十七日)	九	一〇八七
同	(十一月十八日—十二月二十二日)	一〇	一二一五

會員消息

內外雜誌主要題目

.....	二	三四二
.....	三	四五六
.....	四	五七二
.....	五	六八一
.....	六	七八二
.....	七	八九三
.....	八	一〇〇四
.....	九	一一一五
.....	一〇	一二二六
.....	一一	一三三七
.....	一二	一四四八
.....	一三	一五六九
.....	一四	一六八〇
.....	一五	一七八一
.....	一六	一九九二
.....	一七	二一〇三
.....	一八	二二一四
.....	一九	二三二五
.....	二〇	二四三六
.....	二一	二五四七
.....	二二	二六五八
.....	二三	二七六九
.....	二四	二八八〇
.....	二五	二九九一
.....	二六	三〇〇二
.....	二七	三一〇三
.....	二八	三二一四
.....	二九	三三二五
.....	三〇	三四三六
.....	三一	三五四七
.....	三二	三六五八
.....	三三	三七六九
.....	三四	三八八〇
.....	三五	三九九一
.....	三六	四〇〇二
.....	三七	四一一三
.....	三八	四二二四
.....	三九	四三三五
.....	四〇	四四四六
.....	四一	四五五七
.....	四二	四六六八
.....	四三	四七七九
.....	四四	四八九〇
.....	四五	五〇〇一
.....	四六	五一一二
.....	四七	五二二三
.....	四八	五三四四
.....	四九	五四五五
.....	五〇	五六六六
.....	五一	五七七七
.....	五二	五八八八
.....	五三	五九九九
.....	五四	六一〇〇
.....	五五	六一一一
.....	五六	六二二二
.....	五七	六三三三
.....	五八	六四四四
.....	五九	六五五五
.....	六〇	六六六六
.....	六一	六七七七
.....	六二	六八八八
.....	六三	六九九九
.....	六四	七〇〇〇
.....	六五	七一〇一
.....	六六	七二一二
.....	六七	七三二三
.....	六八	七四三四
.....	六九	七五四五
.....	七〇	七六五六
.....	七一	七七六七
.....	七二	七八七八
.....	七三	七九九九
.....	七四	八〇〇〇
.....	七五	八一一一
.....	七六	八二二二
.....	七七	八三三三
.....	七八	八四四四
.....	七九	八五五五
.....	八〇	八六六六
.....	八一	八七七七
.....	八二	八八八八
.....	八三	八九九九
.....	八四	九〇〇〇
.....	八五	九一一一
.....	八六	九二二二
.....	八七	九三三三
.....	八八	九四四四
.....	八九	九五五五
.....	九〇	九六六六
.....	九一	九七七七
.....	九二	九八八八
.....	九三	九九九九
.....	九四	一〇〇〇
.....	九五	一〇一一
.....	九六	一〇二二
.....	九七	一〇三三
.....	九八	一〇四四
.....	九九	一〇五五
.....	一〇〇	一〇六六